

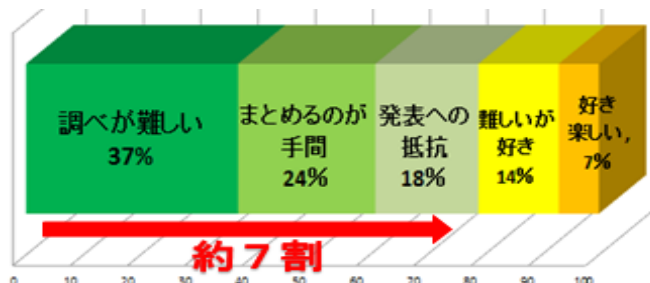
I 主題設定の理由

本校は各教室に電子黒板が設置されており，豊田市内でもICT機器を活用した授業が行いやすい環境にある。その環境を生かして社会科に限らず，多くの教科でICT機器を活用した授業が行われている。黒板で行う授業に加え，教科書内の資料の提示や，タッチペンを用いての資料への書き込み解説は，生徒の学習を手助けしている。本校に在籍する多くの外国人生徒にとっては，ICT機器を活用することで，母語で情報収集できたり，日本語では理解が難しい内容を理解できたり，大いに学習に役立っている。

本学級の生徒が生まれた2002年は，ちょうど高速ブロードバンドが導入され始め，インターネットが急速に世に広まりつつある時期に重なる。家庭には携帯端末やパソコンが普及し，日常的に多くの情報をICT機器から受け取ることができる環境が幼いころから整っていた世代が今の中学1年生である。6月に行ったアンケートによると，本学年（91名）の生徒の8割以上が5～6歳の段階で，なんらかのICT機器を生活の中で活用している。携帯端末の有無に関しては約6割の生徒が個人のスマートフォンやタブレット端末を所有し，FacebookなどのSNSやインターネット内のゲームを通じて，国内や国外の人々とコミュニケーションをとっている事実も明らかになった。ICT機器を利用した社会科の学習に対する質問では，9割以上の生徒が「コンピュータを使った学習は好きだ」と答えた。しかし，社会科の課題解決学習に対する質問では，7割近くの生徒が苦手意識をもっていることがわかった。（資料1，2）



（資料1）ICT機器を活用した社会科学習への意識



（資料2）社会科の課題解決学習への意識

このような現状を受けて，生徒がICT機器に親しみ，自らの資料収集，選択，表現の手段として活用することができ，それを社会科の授業に生かすことで，よりわかりやすく意欲的に学習に取り組めると考えた。そこで，生徒の関心の高いICT機器を活用して社会科の学習を行い，①情報活用能力を高めながら社会科の能力を伸ばすことのできる生徒，②身に付けた力を使って主体的に課題解決学習に取り組むことのできる生徒を育てたいという願いをもって本研究にあたった。

II 研究の基本的な考え方

1 めざす生徒像

- ・情報活用能力を高めながら，社会科の能力を伸ばすことのできる生徒。
- ・社会的事象を主体的に追究することのできる生徒

2 本研究での情報活用能力の定義

情報活用の実践力	【収集】多くの情報の中から，必要な情報を適切に収集するための知識や技能の習得
	【判断】収集した情報を解釈するための資料活用能力や選択するための知識や技能
	【表現】受け手，情報の内容にあった伝わりやすい表現方法を選択する知識や技能
情報社会に参画する態度	【情報モラル】情報モラルの必要性や情報に対する責任をもつ心の育成

〈出典：情報活用能力の3観点8要素（一部抜粋）文部科学省（H27.3）〉

3 研究の仮説

研究主題とめざす生徒像から，研究の仮説を以下のように設定した。

仮説1 ICT機器を使用した社会科学習で，情報活用能力，社会科の能力双方を高める学習過程を設定することで，情報活用能力を高めながら，社会科に必要な知識や技能を伸ばすことができるであろう。

仮説2 課題解決学習で，既習の能力を生かせるような課題資料の選別や検証手段の工夫をすることで，主体的に追究活動を行うであろう。

4 研究の方法

(1) 仮説1に対する具体的な手立て

手立て1 情報活用能力を高め，社会科の能力を向上させる学習過程の設定

ア 道徳の時間を使った情報モラル学習を通して

【情報活用能力を高める】道徳の時間を使って著作権や資料の信頼性を考える授業を行うことで，正しい資料の扱い方について考え，情報社会に参画する態度を育むことができる。

【社会科の能力を伸ばす】道徳資料について考える際に，資料読み取りのポイントを指導することにより，社会科の資料活用に必要な知識を学習することができる。

イ 授業毎のコンピュータを使った検索練習を通して

【情報活用能力を高める】必要な情報を正確に収集するために検索練習を行う。何度も行うことにより，情報を素早く，正確に集めることができるようになる。

【社会科の能力を伸ばす】検索対象の資料を自分の経験や知識と比較して考えたり，資料の細部まで詳しく調べたりすることで，資料から必要な情報を正しく読み取ることができる。

ウ 「絶景コンテスト」を通して

【情報活用能力を高める】バディー（2人1組）学習で互いのパワーポイント作品を，ワークシートを用いて確認し合い，修正する時間を設けることにより，必要な情報

を適切に使用して、受け手を意識した伝わりやすい表現方法を考えることができる。

【社会科の能力を伸ばす】電子黒板を使ったコンテスト発表で自分の作品の良さや仲間作品の良さを確かめる相互評価をすることにより、仲間の作品から知識を得たり、自己有用感から社会科学習に対する意欲を高めたりすることができる。

(2) 仮説2に対する具体的な手立て

手立て2 情報活用能力や社会科の能力を生かし、主体的に活動するための工夫

エ 課題解決学習「日本とブラジルつながり Mission」を通して

【社会科の能力を生かす】教師が事前調べを綿密に行い、身近で生徒が興味をもちやすく、読み取りのポイントが掴みやすい資料を提示することにより、主体的に資料を読み取ったり、考察したりして仮説を立てることができる。また、ウェビングマップを使って、つながりの深さや重要性、知識の変容を生徒が把握できるようにすることで、学習の成果と社会科学習への意欲を高めることができる。

【情報活用能力を生かす】仮説の検証や結果報告で電子黒板やコンピュータなどのICT機器を活用することで、既習した情報活用能力を生かして、意欲的にまとめ、表現できる。

5 研究計画

研究実践1 世界の諸地域【導入】「世界の絶景コンテスト」全7時間完了

世界地理の関心を高めるために世界の諸地域の前の導入として小単元を設定した。

(1) 道徳(情報モラル) 2時間

目標：情報の扱い方や、信頼性を考え、正しく情報を選び、活用しようとする心情を育む。

時間	学習活動	教師の支援
1	○肖像権や著作権を考える。 ・ICT機器の活用上の問題点や知識の必要性を「事例で学ぶ情報モラル」を用いて考える。	・資料を大切に扱うために、情報の発信には責任と権利があること、情報には肖像権や著作権があることに着目して考えを深めさせる。(手立てア)
2	○情報の信頼性を考える。 ・インターネット上の情報の信頼性を考え、資料の読み取りの視点を学ぶ。	・正確な情報を見極める視点を考える際に、社会科の資料読み取りの視点も同時に考えさせる。(手立てア)

(2) 社会科 世界の諸地域①【導入】「世界の絶景コンテスト」5時間

単元目標

- ・ICT機器で必要な情報を、意欲的に活動しようとする。(関心・意欲)
- ・ICT機器を利用して、複数の資料を収集し、結果をパワーポイントにまとめたり、発表したりできる。(資料活用の技能)
- ・資料を適切に判断し、伝わり方を考えて表現できる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・収集した情報から、世界の地理的特色を理解し、その知識を身に付ける。(知識・理解)

時間	学習活動	教師の支援
1	○世界の絶景に出会おう ・キーワード検索練習をする。 ・情報モラル授業をふり返る。 ・バディー(ペア学習)分けをする。	・生徒が、学んだことを意識しながら調べ学習を行うために、道徳の時間に学習した情報モラルの確認を社会科授業の中で行う。(手立てア)

2 3	○世界の絶景を探ろう ・キーワード検索練習をする。 ・情報の収集を行う。 ・パワーポイントにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワード検索練習を通して、資料の視点や正しい情報の読み取り技能を身に付けさせる。(手立てイ) ・バディー学習での教え合いの視点が明確になるようにチェックリストを含んだワークシートを用意する。(手立てウ) ・より効果的な報告ができるように、発表時に電子黒板を用いる。(手立てウ) ・意欲的に相互評価を行うために、ワークシートや席の配置を工夫する。(手立てウ)
4	○世界の絶景を確認しよう ・キーワード検索練習をする。 ・バディー学習での教え合いをする。 ・パワーポイントを修正する。	
5	○世界の絶景コンテスト ・電子黒板で友達の作品の鑑賞をする。 ・友達と作品を相互評価する。	

研究実践2：さまざまな世界の調査「日本ブラジルつながり Mission」全8時間完了

単元目標

- ・日本とブラジルへの関心を高め、意欲的に追究しようとする。(関心・意欲)
- ・資料を適切に読み取り、まとめることができる。(資料活用の技能)
- ・仮説の設定や検証から自分なりの考えをもつことができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・調査や発表から、日本とブラジルに関する知識を身に付けることができる。(知識・理解)

時間	学習活動	教師の支援
1	○日本とブラジルのつながりは？ ・ウェビングマップを作成する。 ① ブラジルという国の知識 ② 知っている日本とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップを使い、生徒の考えの現状を把握することで、単元前後の学習の深まりを確認する。(手立てエ) ・生徒が、学んだことを意識しながら調べ学習を行うために、道徳の時間に既習の情報モラルの確認を社会科授業の中で確認する。(手立てアを生かして) ・インターネット上から入手した情報の信頼性の確認のために、サイトの掲載元の確認、複数のサイトの確認、出典、出典年月の確認に留意するように指導する。(手だてイを生かして) ・ICTを使った有効なまとめ、発表をするために、まとめのパワーポイントのプロットと原稿ワークシートを教師が作成し、それに準じてまとめを行えるようにする。(手だてウを生かして) ・より効果的にICT機器を活用した発表が行えるように、他クラスの同Missionチームとパワーポイントを確認し合い、情報を共有する。また2グループで発表前の互いの発表を確認し合い、必要に応じて修正を加える指示をする。(手立てエ) ・より効果的にMissionの報告活動ができるように、電子黒板を用い、席の配置や評価を工夫する。(手立てエ) ・ウェビングマップを使い、生徒の考えの現状を把握することで、単元前後の学習の深まりを確認する。(手立てエ) ・一方的な国際関係ではなく、互いに助け合い、高め合える関係について考えを深める場として、企業が配布している資料を活用する。(手立てエ)
2	○日本・ブラジルつながり Mission 仮説 ・2つの資料(グラフと写真)から日本とのつながりを考え、仮説を立てる。 【各グループのMission内容】 Mi-A 大豆とセラード開発をさぐれ Mi-B 牛肉とSUKIYAをさぐれ Mi-C アマゾンの森林保護をさぐれ Mi-D サンパウロの犯罪をさぐれ Mi-E ポルトガル語と日本語をさぐれ Mi-F コーヒー農場と移民をさぐれ Mi-G 日系人と日本人街をさぐれ	
3 4	○Missionの調査 ・インターネットで、調べ学習を行う。 ・検索キーワードをグループごとに考え、効率よく、正確な情報を選択する。 ・見つけた情報をパワーポイントと発表レポートにまとめる。	
5 6	○Mission報告会の準備 ・他クラスの同Missionチームと情報を共有する。 ・グループ間で発表を確認し、修正する。 ・改善点を修正する。	
7	○日本・ブラジルつながり Mission 発表 ・電子黒板を使って発表活動を行う。(1グループ5分)を行う。	
8	○日本・ブラジルの持続可能なつながり ・UCC上島珈琲の教材を使って、互いの国の共生について考える。 ・2度目のウェビングマップ作りを行い、考えや知識の変化を話し合う。	

6 抽出生徒

仮説を検証するために、生徒Aと生徒Bを抽出生徒と設定する。

	生徒の実態	教師の願い
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> 事前のアンケートでは、社会科の学習が好きか？という質問に対し、「あまり好きではない。」と返答している。しかし、「頑張りたい。」とも解答し、意欲は感じる。 パソコンやスマホの活用は、保育園から使用しており、得意であると感じている。主に音楽やアニメ視聴、ゲームで利用したようだが、モラルについてはあまり知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく前向きな長所を生かし、バディーやグループでの意見交換を積極的に行ってほしい。 小さいころからのICT機器の活用を通して得た知識を社会科の授業で活用し、社会科への興味を高めてほしい。 情報モラルや情報活用の正しい知識を身に付けてほしい。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> 事前のアンケートでは、社会科の学習が好きか？という質問に対し、「とても好き。」と返答している。「国調べ」（調べ学習）でも意欲的に本やインターネットを用いて調べを進める姿が見られる。 パソコンやスマホの活用は、あまり使用しておらず、知識が少ない。小学校の授業などで文字入力を既習しているため、パソコンの扱いはある程度慣れている。 	<ul style="list-style-type: none"> まじめで正しい知識を得たいという日ごろの様子から、情報モラルや情報処理についての知識を習得し、学習に生かせるようにしたい。 慎重で友達に教えるということを、敬遠しているので、学習した知識を友達と共有し、サポートすることによって、仲間と共に学び、高め合う力をつけてほしい。

III 指導案

1 研究実践1 世界の諸地域【導入】「世界の絶景コンテスト」…全7時間 世界の絶景を確認しよう（4/5）

(1) 本時の目標

- バディー学習によって、すすんで友達とアドバイスをし合える。（関心、意欲）
- バディーカードを元に、資料を正確にまとめているか確かめることができる。（資料活用）

(2) 準備

担任：バディーカード（教え合い教材）

PC（生徒1台 ※コンピュータ室を使用）

(3) 学習過程

時間	学習活動	教師の支援(◇外国人生徒への支援)
導入 5分	<ol style="list-style-type: none"> 音声社会をする。 情報活用の知識の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> 情報の出典や引用を明記する。 画像に加工がかかっていない。 <p>・複数の写真を確認して正確性を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体確認前にペアで確認することによって生徒全員が活動できるようにする。 ●知識をB子と共有できたかを確認するために知識確認でA男を指名する。 ◇日本語が苦手な生徒が表題、年度、出典などを理解できるように、電子黒板を使って資料画像を提示する。

<p>展開</p> <p>3 バディー学習で作品を確認し合おう。</p> <p>40分</p>	<p>・表題，出典，撮影年，場所などに着目できるように，プリントに項目を設ける。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">バディーの絶景は正確？魅力的？</p> <p>【正確さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出典が信用できる。 ・撮影年や場所が正確に記されている。 <p>【魅力の伝わりやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像が少し荒い。 ・紹介文がわかりやすい。 <p>4 作品を修正しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介文をもっとわかりやすい言葉にしよう。 ・画像の出典があいまいだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良くするためのアドバイスであるため，友達の作品を否定するのではなく，「～するともっと良くなると思う。」など言葉がけに気を配ることを指示する。 ◇日本語が苦手な生徒が日本語でうまくまとめるために，日本人生徒とのバディーを組んでおく。 ●B子が積極的にA男とバディー学習で伝え合うために，A男に前向きな言葉で褒めながらバディー学習を進めるよう声かけをする。 ・解像度の良い画像を発見するために，「HD」や「高解像度」などのキーワードを付け足すように指示する。
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>5 本時をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バディー学習について振り返ることを指示する。 ●互いのアドバイスのよかったところに目が向くように，机間巡視時にA B双方に声かけをする。 ・振り返りをバディーで確認し，次時への意欲を高める。

(4) 評価

- ・すすんで友達に，前向きなアドバイスができたか。(関心，意欲)
- ・出典などの情報の正確さをキーワード検索を使って行えたか。(資料活用)

2 研究実践2 さまざまな世界の調査「日本ブラジルつながり Mission」

・・・全8時間完了

(1) 本時の目標

- ・グループ Mission をもとに，すすんで友達と話し合うことができる。(関心，意欲)
- ・Mission 資料から，重要な情報を見つけ，仮説を考えることができる。(思考・判断)

(2) 準備

担任：Mission 資料1・2 (A～G)，ワークシート，電子黒板，説明用パワーポイント

(3) 学習過程

時間	学習活動	教師の支援(◇外国人生徒への支援)
10分	<p>1 音声社会をする。</p> <p>2 本時の学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とブラジルのつながりを発見する課題解決学習を行う。 ・7グループに別々の課題を出す。 ・本時は2枚の資料から仮説を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習意欲を高めるために、生徒司会で音声社会の活動を行う。 ● A男の学習意欲を高めるために、A男を指名して前時の確認をする。 ◇日本語が苦手な生徒が本時の活動を把握するために、電子黒板を使って画像や音楽を提示する。
20分	<p>3 資料1(グラフ・地図)を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・① 資料から事実を見つける。 ・② 見つけた情報から、日本とのつながりを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Mi-A 大豆が1970年から増加 世界1の生産量</p> <p>Mi-B 牛肉の生産世界2位 日本50倍消費</p> <p>Mi-C アマゾンの森林減少 伐採の量の減少</p> <p>Mi-D サンパウロの犯罪減少 ポルトガル語の解説</p> <p>Mi-E 南米の言語の違い ブラジルはポルトガル語が公用語</p> <p>Mi-F コーヒーの生産日本一 日本の最大の輸入相手</p> <p>Mi-G 世界最大の日系人数 160万人もいる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを発表する。 	<p>日本・ブラジルつながり Mission の仮説を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取るべき資料のポイントを確実に生徒が見つけるために、机間巡視を行い、ワークシートや発言を確認し、助言する。 ・より良くするためのアドバイスであるため、友達の作品を否定するのではなく、「～するともっと良くなると思う。」など言葉がけに気を配ることを指示する。 ● B子がA男からの情報を活用できるように、B子を発表メンバーに指名する。 ・読み取った視点を明確にするために、パワーポイントを使って発表する。 ◇外国人生徒が自己の体験を話せるように教師側から数人の外国人に問いかける。
20分	<p>4 資料2(写真)と照らし合わせて日本とブラジルのつながりを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で考えを出し合う。 ・仮説を1つ設定する。 ・全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒の意見から1つの仮説を立てるために、出た意見をワークシートに記入するよう指示する。 ・仮説の根拠が分かるように発表時にPPに資料1, 2を提示する。
5分	<p>5 本時をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しカードを記入する。 ・次時の活動を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の調べ学習をスムーズに行うために、振り返りカードに次回使えそうなキーワードを記入するよう指示する。

(4) 評価

- ・すすんで友達と、話し合うことができたか。(関心, 意欲)
- ・事実を資料から読み取り、仮説を考えることができたか。(思考・判断)